

編 集 後 記

今月の巻頭言である佐久間康夫先生の「基礎研究者のキャリアパス」では、ポストドクター制度に焦点が当てられています。北米の研究推進の大きな原動力となっているこの制度が、我が国でも同様に有効に機能するか否かは、今進められている科学技術振興政策の成否のかぎをにぎる要素のひとつになると考えられます。今年度から「特に優れた若手研究者を発掘し、世界最高水準の研究を行う研究能力を有する可能性を持つ者を特別研究員PDよりも優遇された条件で採用する」特別研究員-SPDが創設されます。また、これまでの奨励研究(A)に代わって、より予算規模の大きい若手研究(A)(B)が新設され、次代を担う研究者の育成への財政的な支援が充実されつつあります。しかし、これらの施策が実を結ぶためには、

巻頭言にあるように「若い人材にもう少しばかり確実な現実と多様な選択を与える必要」があるでしょうし、各研究組織での若手研究者の自立のためのインフラの整備が必須でしょう。

本号の目玉は、「若手の会」の活動報告でしょう。シンポジウムの講演内容をまとめていただいた3つの記事は、いずれも新たな技術の理解に貴重なものであり、研究の新展開のヒントになった会員も多いと思います。また、報告記事にあるようにサマースクールは盛会で、実際に参加した教室の若手も充実したミーティングだったと高い評価をしておりました。息の長い活動になるように期待しております。

(工藤典雄記)

*編集執行委員

編 集 委 員

*金子 章道 (編集幹事) (感覚)	青木 藩 (呼吸)
小野田法彦 (感覚)	河南 洋 (自律神経, 内分泌)
*工藤 典雄 (運動, 発生・成長・老化)	窪田 隆裕 (腎・体液)
黒島 晟汎 (環境)	*小西 真人 (筋)
佐久間康夫 (生殖)	*佐々木成人 (運動)
高田 明和 (血液)	菅屋 潤壹 (栄養・代謝・体温)
*高松 研 (神経化学)	土居 勝彦 (心臓・循環)
*入来 篤史 (感覚, 運動, 高次中枢)	成瀬 達 (消化・吸収)
辻岡 克彦 (循環)	*川上 順子 (感覚)
村上 政隆 (膜輸送)	福田 淳 (感覚, 高次中枢)
小山 なつ (HP担当)	吉岡 利忠 (体力)

日本生理学会事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-10 布施ビル
TEL：03-3815-1624 FAX：03-3815-1603 (勤務時間10：30～18：30)
E-mail：psj@qa2.so-net.ne.jp
URL：http://www.soc.nii.ac.jp/psj/